

平成28年度福岡市小図研 7月定例会記録

文責：伊賀 綾子（月隈小）

実技研修

「子どもの「思い」と「技法」をつなぐ水彩 絵の具の指導について」

講師：内野小 小川将志先生

ギャラリートーク



「子どもの作品からみんなで話し合います。」

1枚の絵（子どもの作品）に対する感想を話し合いました。その際のポイントは「発言をつなぐ」ということです。

○1人が感想を発表したらそれに対して教師がコメントを返す。

○2人目は1人目の発表とできるだけつなげるようにする。

○発表が難しい児童には観点を提示する。

- ・色遣い
- ・構図
- ・表情や目線から感じる作者の思い

この活動でよい所は大きく2点です。

○1つの作品に対する様々な考えが交流できること。

○作者本人が気づかなかった所も認められること。

以上の点から実際に何点か実践していただきました。



「肌の色が1人1人違っていいと思います。」
T：確かに肌の色が1色ではなく何色か混ぜられていて1人1人違いますね。（絵を指さしながら）続けてどうぞ。

「肌もですが体操服の色も白だけでなく色を混ぜていて少し汚れた感じが出ています。」

T：そうですね。体操服の色も違ってきますね。よく見ることができていますね。

「真ん中の組んでいるペアの下の子の目線が相手を見ていて力強いと思います。」

T：本当ですね。下ではなく見上げている所に負けないぞという気持ちが感じられますね。では、構図に関する感想はありますか。

「組んでいる子たちだけでなく、後ろの応援の子たちも描くことで場の盛り上がり伝わります。」

「それと右のペアが全身ではなく、途中までしか描いてないのが画面いっぱいまで表していると思います。」

T：この左右にも同じように組んでいる子たちがいるのが想像できますね。…以下略

児童の他 作品→



絵の具の技法カード



ジュースぬり

水分を多く含んでぬります。

マヨネーズぬり

水分を落としてべったりぬります。

ぺたぺたぬり

スタンプのように筆をおきます。

てんてんぬり

筆の穂先を使ってちょんちょんぬります。

スーソーぬり

筆の穂先を使って線を引くようにぬります。

にじみ

画用紙にきれいな水で濡らした後、色をのせます。

自分の思いを表せるぬり方ができるように、常時掲示しておきます。

対比資料

同じ下書きの絵で、左が単色、右が重色・混色でぬった作品を並べます。実際に比べることで重色や混色の良さが確認できます。



割ピン人形



体の部位を白表紙でかたどり、割ピンで組み合わせたもの。

この割ピン人形を使うと、写真を見て曲がっている所（関節）を描く難しさや友だちやってもらっ

て描く時間の節約になります。

絵の具の布はスポンジや雑巾よりもマイクロファイバーがいいです。吸水力もよくタンポン代わりにも使えます。

八久保先生のペインティング



筆の穂先を使うと「中」の筆1本でぬることができるそうです。ただし、穂先がピンとなる筆に限るのでナイロン筆、ネオ・セーブルの筆がおススメだそうです。

授業研究部会

事前に横手小学校の先生方と児童の実態や題材についての打ち合わせが行われました。

それを踏まえて、各部で具体的な指導案の作成に取り組みました。

1年「のってみたいな」

低学年部（当仁小1年：後藤由加里先生）

3年「いろいろ写して」

中学年部（飯倉中央小3年：吉村亜希子先生）

6年「想像の翼を広げて」

高学年部（和白小：山口亮大先生）

特別支援「みてみてにこにこボード」

（東若久小：井上裕子先生）